

利用者向けのアプリ「droppin(ドロップイン)」を2021年10月に提供開始した。

droppinでは、任意の地域のサードワークプレイスを即時に検索可能で、利用者はアプリを通じてワークスペースを予約し、スムーズに利用開始できる。また、アプリ内での決済が可能で、現金やカードの使用が不要となっている(図表4-3-6)。

コロナ禍を通じて、オフィスや自宅以外の「第三の働く場所」の重要性が高まる中、利便性の向上を目的に開発されたもので、このサービスにより、柔軟な働き方がさらに推進され、特に移動が多いビジネスパーソンにとって有用なツールとなっている。提携スペースの拡大や利用者の利便性向上を図る機能追加も今後予定されている。

(2) リモートワールドを支援する技術・サービス・ソリューションの提供

人と人が分散して活動する際、プラットフォームの存在は不可欠である。しかし、プラットフォーム上で円滑なコミュニケーションと効率的な活動が実現されなければ、一時しのぎの感染症対策にとどまり、DXを伴う「リモートワールド」の実現には至らない。

NTTグループでは、感染拡大期から、アフターコロナ社会を見据えて、こうした課題を解決するサービス、ソリューションを展開してきた。

これらの取り組みは、コロナ禍における社会課題に迅速に対応し、多様なニーズを支えるものであると同時に、それぞれが持つ革新性と実用性により、来るべきリモートワールドを支える新たな基盤として重要な役割を果たすものである。

■経理部門の完全テレワーク化支援

企業の経理部門におけるテレワーク推進を支援するため、

NTTコミュニケーションズは2021年6月、「経理・請求書トータルソリューション」の提供を開始した。請求書の発行、受領、経費精算など、従来紙ベースで行われていた作業をオンラインで一括管理し、経理業務の完全なデジタル化を実現する。主な特徴は以下の通りである。

- ・請求書電子化:請求書のデジタル化により、受領から保存までの全プロセスをペーパーレス化
 - ・経理業務の自動化:AIを活用した経費精算や取引先情報入力自動化による人的ミスの削減
 - ・セキュリティ強化:高度な暗号化技術による財務データの安全性確保
- 導入企業では、業務効率が大幅に向上し、コスト削減にも成功している。

■視聴者同士の一体感を醸成する「情動的知覚制御技術」の研究開発

イベントやスポーツ観戦の形が変化する中で、人々が離れた場所にいながらも共感や一体感を得られる技術の必要性が生じたことを受け、NTTは2020年11月、「情動的知覚制御技術」を活用した新しいエンターテインメント体験の研究開発を進めていることを発表した。

視聴者の表情や音声、脈拍データを用いて情動や感情をリアルタイムで分析し、そのデータをもとに映像や音響を最適化する。視聴者ごとに映像や音響を調整し、感情に合った体験を提供するとともに、複数の視聴者が同じ感情を共有できる仕組みを構築し、一体感を醸成を実現する。今後、エンターテインメント産業や教育医療など多様な分野への応用が期待されており、デジタル体験の更なる進化を促進する可能性がある(図表4-3-7)。

■オンライン資格・検定試験に対応した「クラウドAIを用いた挙動検知機能」の開発

図表4-3-7 ▶情動的知覚制御技術のイメージ



出所：NTT「リモートワールドにおける新しいエンターテインメント視聴の創出に向けて」(2020年11月16日)